

研究主題

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部会 研究主題

学びの質を高める、評価活動と指導の工夫

第5学年国語科学習指導案

単元名

これがあるからおもしろい！「まんがの方法」！

学習材名「まんがの方法」(教育出版 5年)

日時:令和4年2月18日(金) 5校時

児童:文京区立千駄木小学校 第5学年 2組 40名

担任:文京区立千駄木小学校 主任教諭 大谷 綾子

指導者:新宿区立余丁町小学校 主任教諭 小松 沙織

1 単元の目標

- 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解することができる。
(知識及び技能)
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 文章を読んで理解したことや知識・経験に基づいて、自分の考えをまとめることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	① 文と文との接続の関係、文章の構成や展開について理解している。(C(1)カ)	① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。(C(1)ア) ② 「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。(C(1)ウ) ③ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	① 粘り強く、事例の内容や効果について考え、今までの学習を生かして効果的だと感じた「まんがの方法」について自分の考えをまとめようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

児童はこれまでの学習を通して、構成や要旨、事例と主張の関係など説明文の読み方に関わる学習を積み重ねてきている。説明文の内容から、適した読み方を選択し、活用できるようになってきている。

一方で、内容を正しく読み取る読み方については自覚的であるが、説明文の内容について自分なりの考えをもったり、自分の生活と文章の内容との関わりについて考えたりするなど、考えの形成に至るための方法については自覚的ではない。今回は、手引きを基に、説明文の内容や構造を読み、そこから文章に対する自分なりの考えをもってほしいと考えている。

また、自分の考えを適切に表現するためには、新たに出会う言語の意味を理解し、語彙を広げていくことが重要である。本単元では、手引きの中に、新たに出会った言葉を書く場所を用意することで、児童が適宜新しく出会う言葉を書き込めるようにした。終末の言語活動では、自分が好きなまんがの魅力をわかりやすく伝えるといった学習活動を設定し、その増えた語彙を適切に使用していけるようにしたいと考えている。

(2) 学習材について(学習材観)

本学習材は、まんがの面白さを表現するために使われているいくつかの技法について、事例を挙げて説明されている。事例は7つ紹介されており、それぞれ「コマを使う」、「印刷文字のセリフがある」、「手書き文字がある」、「人物の描写が単純」、「省略表現がある」、「背景の書き方」、「ナレーターの言葉」である。

本文の構成としては、冒頭でまんがの面白さが提示され、そのおもしろさかどのように表現されているかという問題意識を読み手に与えている。結論では、紹介されている7つの方法が、ほんの一部とされ、今後もさらに新しいものが生み出され、その方法を自分で見つけていくことの重要性が述べられている。

各事例は、要点を先に述べた後、具体的な方法から実際のまんがの例、その効果について述べられている。「方法」「具体的な説明」「効果」という構成がわかりやすいため、事例がまんがの中で発揮している効果を着実につかませていくことで、終末の言語活動を深く考えることができる。

15段落では、海外の多くの国でも漫画が親しまれていることに触れられているが、その理由については読み手に投げかけられている。言語が違っていても楽しめるまんがの方法について児童自身が、考えをもつ必要性がある部分である。

(3) 単元について(単元観)

本単元のねらいである、「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」や「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」を達成するために、「まんがのおもしろさについて自分の考えをまとめる」という、単元を通しての課題を設定する。その課題を解決していくために、二次では、筆者の主張や、本文で紹介されている事例とその効果について、正確に読み取る必要がある。文末表現によって、事実と筆者の意見を読み分けることや文章構成等から筆者の意見を捉えることが重要である。

また、筆者の挙げる事例と主張との関係を読み取ることで、紹介されている事例について、意見をもたせていく。こうした活動が、児童が文章について考えを形成していく力を身に付けていくことに繋がると考える。

単元の終末では、自分の選んだまんがに使われているまんがの方法を紹介するという言語活動を設定した。読み取ってきた方法と効果や、事例に対する見方を基にして、自分の好きなまんがに使われている「まんがの方法」を発見し、「おもしろさ」についての分析を通して、文章に対して自分の考えをもたせたい。

4 研究主題に迫るために

(1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 読みの視点を共有するための手引きの活用

児童が自発的に読みを進めていくためには、既習の説明文の読みの視点を想起させ、その活用を自覚的に行っていく必要があると考える。手引きは、2段式のマトリックスの形式とした。上段に今まで学習してきた「説明文を読み深めるための視点」、下段に「単元の中での使い方やわかったこと」を書かせる。上段は、学級全体で共有する時間を取り、それぞれに説明文に対する読みの視点をもちせていく。下段は単元の中での、読み方の視点の使用場面と効果について振り返らせる。自覚される場面が児童それぞれで異なることが予想される。一次以降の各時間において、必要な時間を選択させ、振り返らせていきたい。

② 学びの必然性をもたせる学習過程の工夫

導入の段階では、まんがの祖と言われている「鳥獣戯画」の絵を見せ、現代のまんがとの比較を行う。比較することで現代のまんがには、様々な工夫があるということに気が付かせ、方法を調べていくことの意味と、その方法の効果の様相が普段自分の読んでいるまんがにどのように使用されているのかという課題への方向付けを行う。

③ 筆者の主張に対して、自分の考えを生み出させる課題の設定

筆者の主張に対して、自分の考えをもたせるためには、児童が思考の「ズレ」を感じる必要がある。「まんがの方法」においては、15段落で言葉が異なる国でもまんがが親しまれていることが述べられているが、本文中で紹介されている事例全てが、海外でも親しまれている理由にはなっていない。筆者の主張に対して、どの事例がその主張を支えているのか、逆にその主張を説明するために適していない事例はあるのかなど、主張と根拠の妥当性の検討が重要である。二次の序盤では、本文中で紹介されている事例とその効果について読み取った上で、二次終末において15段落の意図について考え、筆者の事例選択に対して、自分の考えをもたせるようにしたい。

(2) 学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

① 評価規準の共有と学びの手引きの活用

児童と評価規準を共有するために、手引きの冒頭に「この単元で身に付けたい力」を記載し、一次の段階で確認する。提示する評価規準は、指導事項を5年生の児童でも理解できるような具体的な言葉で提示する。評価規準を共有することで、児童が単元の中で必要な力を念頭に置き、学習を進めていけると考える。

三次では、一次で確認した身に付けたい力に対して、振り返る時間をとる。振り返ったことから、学習で得た力を自覚的に捉えさせる。また、次の説明文の学習で、生かしていける部分を考え、今後の学習に生かしていけるようにする。

(3) 言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

① 語彙の拡充と手引きの活用

語彙を豊かにしていくためには、単元の中で特に重要だと考えられる言葉や自分の新しく知った言葉、学習に使用させたい言葉を意図的に捉えさせていく必要がある。手引きの下部に言葉を書き留めるスペースを用意し、単元の中で記載させていく。

本単元で重要な語彙の一つは、筆者の主張を支え、繰り返し使われる語彙である。「まんがの方法」では、「方法」、「表現」、「効果」、「省略」、「強調」などそれぞれの事例の説明に使われている語彙である。こうした語彙について、各事例を扱う段階では、言葉の意味を具体的に捉えさせていきたい。辞書にある言葉の意味のみならず、教材の中で使われている言葉の範囲を捉えさせることが重要だと考えている。

語彙に関わる手引きは、家庭学習などとも連携して記載させる時間を設けていく。蓄積された語彙が、終末の言語活動に生かされていくと考える。

② 「まんがのおもしろさ解説シート」の作成

単元の終末では、自分の選んだまんがのおもしろさを解説する文章を書く。自分で選んだまんがの1ページを基に、使われているまんがの方法や、効果について考え、おもしろさがどのように引き出されているか自分の考えを表現していく。児童は二次の学習によって、事例の内容や効果について考えている。その見方を生かして、自分なりにまんがの方法と引き出されているおもしろさについて考えをもたせたい。

また、本文中で述べられている7つの事例だけでなく、筆者の主張の一部である「新しいものが生み出されている」という部分を受けて、新しくまんがの方法を発見する児童もいることが予想される。その際には、単元内で学習した方法と効果という視点を基にして、新しく発見された「まんがの方法」について分析させるようにしたい。

5 単元計画（全7時間）

次	時	学習過程	学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 手引きの活用	◆評価規準 ★評価方法
一	1		<p>1 昔の漫画である鳥獣戯画と現代の漫画の1ページを比べて、感じたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔はセリフを入れないんだ。 ・今の漫画の流れが分かりやすいのはコマがあるからかな。 ・鳥獣戯画の方が絵がリアルだ。 <p>2 本文を読み、自分たちの意見と比べながら初発の感想をまとめる。</p> <p>3 初発の感想を交流し、学習計画を立てる。</p>	<p>○現代の漫画の構成要素に気付けるよう資料の提示を工夫する。</p> <p>○筆者の意見を読んで気付いた点や明らかになった視点を共有する。</p> <p>手引きの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本単元で身に付けたい力を確認し、学習への見通しをもたせる。 	
<p>「まんがの方法とおもしろさ」について自分の考えをまとめよう。</p>					
二	2	構造と内容の把握	<p>1 単元計画を見ながら、本文を読む際に活用できそうな既習事項を考え、手引きにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭括型、双括型、尾括型がある。 ・事例の段落の初めは終わりの文に大切なことが書かれていることが多かった。 <p>2 筆者の主張を捉え、要旨をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まんがの方法」を見つけ、漫画を楽しんでほしいと思っている。 ・「常に新しいものが生み出されていて」とあるから、漫画に込められた努力や工夫も知ってほしいのではないか。 <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードに注目して要旨をまとめられた。 ・みんなで手引きを確認したおかげで、要旨のまとめ方が分かった。 ・はじめやおわりに注目すると大事な言葉を見つけることができた。 	<p>○問かけや接続詞など、文章表現にも着目し、手引きが作成できるようにする。</p> <p>○手引き作成の際に、本文は何語か言及し、主張を見つけておけるようにする。</p> <div data-bbox="802 1346 1155 1659" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>要旨の例</p> <p>まんがには、面白さを表現するために様々な方法が使われており、言葉の異なる国でも十分に楽しめる。まんがの方法は常に新しいものが生み出され、その新しさが、まんがをより面白くしている。いろいろなまんがの方法を知ることで、今までよりもっとまんがを楽しむことができる。</p> </div> <p>手引きの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張や構成を読み取る際の手立てや視点を確認する。 ・要旨をまとめる際には、はじめやおわりから、重要な言葉を見つけてから、まとめていくということを確認する。 	<p>◆【思一①】叙述を基に文章全体の構成を捉え、要旨を把握しているかの確認。</p> <div data-bbox="1193 1160 1390 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B：16段落から筆者の主張の中心をつかんで要旨をまとめている。</p> <p>A：段落相互の関係や、文章全体の構成を基にして、筆者の主張を捉え、要旨をまとめている。</p> </div> <p>★発言 ★全文シート ★ノート</p>

3	構造と内容の把握／精査・解釈	<p>1 事例の数を整理し、論の進め方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まんがの方法」は全部で7つかな。 ・どんな「方法」か説明している。 ・その方法の効果だけでなく、具体例を出していて説得力がある。 <p>2 資料と本文を照らし合わせながら読み、「まんがの方法」について具体的に捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手書き文字」の効果である迫力やスピード感が、資料「ちはやふる」から具体的に感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「方法」「具体的な説明」「効果」という論の進め方に気付けるよう板書や掲示を工夫する。 ○「方法」「効果」「具体例」など視点を示し、色分けしてサイドラインを引かせたり表にまとめたりするなど、整理の仕方を提示する。 ○資料と本文が照らし合わせられるよう、資料の提示を工夫する。 	<p>◆【知技—①】文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解しているかの確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B : 前時を参考に問いと答えや事例と意見の関係などをおさえながら段落の要点をつかみ、構成表にまとめている。</p> <p>A : 7つの方法をさらに大きく仲間分けする、他のまんがと比較するなど、それぞれの事例の特徴を捉えている。</p> </div>
4		<p>1 学習した「方法」を中心に事例ごとの役割や段落同士の関係について整理し、構成をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問いがあるから2段落までが話題提示だ。 ・⑤⑥⑦段落は、「まんがの方法」ではあるけれど、鳥獣戯画との違いであがったところだから、漫画の基本的な読み方の説明だ。 ・⑮段落は事例だけど「まんがの方法」ではない。 <p>2 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論の進め方と資料を照らし合わせて具体的に理解することができた。 ・表に整理すると、大まかな内容や構成がつかめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事例の順序性に気付くことができるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>手引きの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明文の構成要素や段落の役割について確認、追記する。 ・筆者の論の進め方やその効果に気づき、手引きに追記する。 </div>	<p>◆【思—②】事例について、図表と文章の結びつきを捉えたり、論の進め方について考えたりしているかの確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B : 7つの事例を見つけ、「方法」「具体的な説明」「効果」という筆者の論の進め方に気付いている。</p> <p>A : 7つの事例を見つけ、「方法」「具体的な説明」「効果」という筆者の論の進め方の効果について考えをもっている。</p> </div> <p>◆【主—①】粘り強く事例の内容や効果について考えているかの確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B : 粘り強く文章を読み、事例の内容について考えている。</p> <p>A : 粘り強く文章を読み、事例の内容や効果について考え、発表している。</p> </div> <p>★全文シート ★ノート ★手引き ★発言</p>

5	精査・解釈／考えの形成	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 前時までにまとめてきた筆者の主張、事例、論の進め方等を整理する。</p> <p>3 「キャプテン翼」の資料を活用し、今まで読んできたマンガの「方法」や15段落について具体的に捉えていく。</p> <p>4 筆者の考えについて自分の考えをまとめ、共有する。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。</p>	<p>○全文シートを活用しながら、マンガの方法と図とを改めてつなげ、その効果がどのようなものかを振り返りやすいようにする。</p> <p>○これまでのマンガの方法の事例と資料とを結び付けながら、マンガの方法やその効果について情報を整理し、「言葉の異なる国でも十分楽しめる」というのがどういうことか具体的に捉えられるようにする</p> <p>○マンガの方法を読む前と、読んだ後でどのように考えが変わったか、また、マンガの方法があることを知って、マンガに対してどのような考えをもつようになったかなど、考えをもつための視点を板書で整理しておく。</p> <p>○本文中の事例や、できれば自分の経験も具体的に示しながら、自分の考えをノートにまとめられるようにする。</p> <p>手引きの活用 これまで本文を読んできた視点や読みのコツを確認し、可能ならば追記する。</p>	<p>◆【思—③】文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と自分の経験と結びつけて考えをまとめているかの確認。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>B：本文で紹介されている事例をもとに、筆者の主張に対して自分の考えをまとめている。</p> <p>A：事例やその他の資料、自分の具体的な経験を関連させながら、筆者の主張に対して自分の考えをまとめている。</p> </div> <p>★発言 ★ノート ★手引き</p>
---	-------------	--	---	--

<p>三</p>	<p>6 7</p>	<p>考 え の 形 成 / 共 有</p>	<p>1 「キャプテン翼」の資料から、事例で紹介されている方法とは別の方法を見つける。 ・最後のコマの背景の線と表情の組み合わせから、何かたくらんでいるように感じる。 ・「キャプテン翼」は吹き出しの枠の描き方にも工夫があると思う。</p> <p>2 筆者の主張を基にして、自分の選んだ漫画に使われている「まんがの方法」について確かめる。 ・私のもってきた漫画にも、コマ割りの工夫が使われている。 ・本文にはない工夫があるな。でもこれも面白さにつながっている。</p> <p>3 自分が見つけた「まんがの方法」の中から、効果的だと思うものを選び、紹介にまとめる。 ・吹き出しの枠を見てみましょう。丸みを帯びた吹き出しと、鋭いとげの生えたような形のものがあります。このように区別することで…。</p> <p>4 選んだ資料を提示しながらグループで考えを伝え合い、感想を交流する。</p> <p>5 単元の学習をふり返る。 ・自分の選んだまんがでも「まんがの方法」があることで、おもしろさが表現されていた。 ・筆者の提示した事例以外にも「まんがの方法」はあり、筆者の主張である新たな方法が生み出されていることが確認できた。</p>	<p>○前時に整理した本文にある「まんがの方法」が見つかるか確認する。 ○方法だけでなく効果まで同じもの、方法は同じでも効果が違うもの、違う方法でも効果が同じものなど、整理しながら確認していく。</p> <p>○本文には紹介されていない「方法」でも良いことを伝える。 ○3時でおさえた筆者の論の進め方を参考にまとめられるようにする。</p> <p>手引きの活用 ・本文以外の資料の活用など、複数の情報と情報の関連付け方をおさえる。 ・「効果」を伝えるための言葉を共有し、語彙を増やす。 ・身に付けたい力についてどのような過程でその力が身に付いたのか振り返る。</p>	<p>◆【思-③】文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結びつけて自分の考えをまとめているかの確認。</p> <div data-bbox="1197 414 1396 918" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B : 本文で挙げられている事例が、他のまんがにも当てはまることを確かめ、整理・分類している。</p> <p>A : 本文で挙げられている事例が他のまんがにも当てはまることを確かめ、紹介されている事例以外のまんがの方法や、事例の組み合わせによる効果等に気付き、まんがの方法を分類・整理している。</p> </div> <p>◆【主-①】今までの学習を生かして文章について考えたことをまとめようとしているかの確認。</p> <div data-bbox="1197 1232 1396 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B : 自分の選んだまんがに使われているまんがの方法について、自分の考えをまとめている。</p> <p>A : 自分の選んだまんがにつかわれているまんがの方法について、既習の学習と自分で新しく気付いた方法など多方面から考え、粘り強くまとめている。</p> </div> <p>★ノート ★発表 ★解説シート</p>
----------	----------------	--	--	--	---

6 本時の学習 (5/7)

(1) 本時のねらい

多様な情報を整理しながら、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
1 本時のめあてを確かめる。	○前時の記録を活用し、学習計画を確かめて本時の学習に目を向けられるようにする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">筆者の主張について自分の考えをまとめよう。</div>		
2 前時までにとまとめた筆者の主張、事例、論の進め方等を整理する。	○全文シートを活用しながら、まんがの方法と図とを改めてつなげ、その効果がどのようなものかを振り返りやすいようにする。 ○15段落の記述と「キャプテン翼」の事例の特殊性に着目し、何が伝えたいのか考えられるようにする。	
3 「キャプテン翼」の資料を活用し、今まで読んできたまんがの「方法」や15段落について具体的に捉えていく。 ・「キャプテン翼」の資料を実際に読んでみると、確かに表情やコマ割りで分かることも多い。「言葉の異なる国でも十分楽しめる」というのはこういうことかな。 ・これまでの方法があるからこそ、言葉が分からなくても伝わるんだ。 ・本文には紹介されていないけれど、吹き出しがとげとげしているものは語調が強そう。	○これまで学習した事例と資料とを結び付けながら、まんがの方法やその効果について情報を整理し、「言葉の異なる国でも十分楽しめる」というのがどういうことか具体的に捉えられるようにする。	
4 筆者の主張について自分の考えをまとめ、共有する。 ・当たり前目にしていたまんがだが、「まんがの方法」を知って読んでみると、これまでとは違ったところに気付き、より楽しめた。 ・自分が好きな作品「○○」を改めて読むと、本当に表情豊かで、大きなコマで見せるなどの「方法」がたくさんあった。だからこんなにも主人公の気持ちに入り込めるんだと気づいた。 ・まんががこんなにも面白かったり、感動したり、勇気をもったりできるのは、たくさんの工夫や努力	○まんがの方法を読む前と、読んだ後でどのように考えが変わったか、また、まんがの方法があることを知って、まんがに対してどのような考えをもつようになったかなど、考えをもつための視点を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価に対する指導</p> <p>○<u>概ね満足できる児童への手立て</u> 文章中の事例だけでなく、自分の知識や経験などとも関連させて、具体的に自分の考えを述べているかを考えさせる。</p> <p>○<u>概ね満足できる状況を目指す児童への手立て</u> 文章の事例をもとに具体例を取り上げながら自分の考えを表現できているかを考えさせる。</p> </div>	◆【思考・判断・表現③】 多様な内容を結び付けながら読んで筆者の主張を具体的に捉え、それに対する自分の考えを明確にしてまとめているかの確認。 ★ノート・発言 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>B：本文で紹介されている事例をもとに、筆者の主張に対して自分の考えをまとめている。</p> <p>A：事例やその他の資料、自分の具体的な経験を関連させながら、筆者の主張に対して自分の考えをまとめている。</p> </div>

<p>がつまっているからだ 知り、まんがは世界に誇る 日本の文化だと改めて感 じた。</p> <p>5 本時の学習を振り返り、次時 への見通しをもつ。</p>	<p>○本文中の事例や、できれば自分の経験 も具体的に示しながら、自分の考えを ノートにまとめられるようにする。</p> <p>○ペアやグループから全体での交流や 情報共有となるようにする。</p> <p>手引きの活用 これまで本文を読んできた視点や読み のコツを確認し、可能ならば追記する。</p>	
---	---	--

<板書計画>

めあて

筆者の主張について自分の考えをまとめよう

前時までに見つけた「まんがの方法」

・コマ割り ・吹き出し ・人物の表情 ・背景
・手書き文字・ナレーター
↓十五段落には「方法」がない・・・？
○十五段落で筆者が伝えたいことは何か？何のためにあるのか？

【背景】
背景の線が集
中して、
会話が盛り上
がっている様
子が分かる。

【吹き出し】
吹き出しがぎぎぎで強
い言い方だと分かる。

【表情】
何か企んでい
そう。感情が
想像できる。

資料

「キャプテン翼」

・今まで述べてきたたくさんさんの「方法」によって、
「言葉の異なる国でも十分に楽しめる」。
・まんがには世界的な価値がある。

筆者の考えに対して自分はどうのように思ったか。

・まんがの方法がこんなにあることに驚いた。
・背景やコマ割りで物語の様子や人物の心情を描くことで、言葉以上にその様子を読み手に伝えることができると思う。言葉を超えてまんがが楽しまれていく理由がよくわかった。
・たくさんさんの努力や工夫があるからこそ、まんがは面白いし、人を感動させる。世界に誇る日本の文化だ。

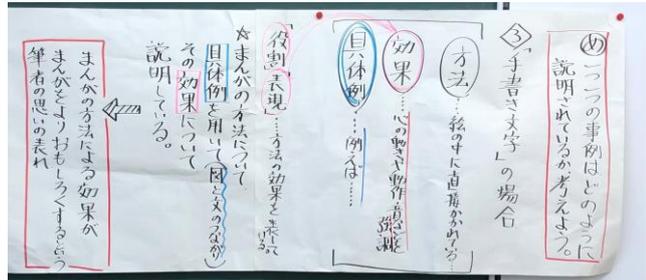
— 高9 —

事前授業の実際

過程 (次)	時	学習活動	授業の様子・板書
一	1	<p>○初発の感想を交流し、学習計画を立てる。</p> <p>「鳥獣遊戯」の絵を見せて現代の漫画と比べることで、課題への方向付けを行った。学習計画を立て、ゴールへのイメージを児童と共有した。</p>	
二	2	<p>○単元計画を見ながら、本文を読む際に活用できそうな既習事項を考え、手引きにまとめる。</p> <p>○筆者の主張を捉え、要旨をまとめる。</p> <p>手引きを活用し、既習の説明文の読み方を確認し、意識的に使っていけるようにした。また、この段階で要旨を読み取ることで、次時以降、筆者の主張とのつながりを意識しながら事例を読み取っていけるようにした。</p>	
3 4		<p>○事例の数を整理し、論の進め方をまとめる。</p> <p>○資料と本文を照らし合わせながら読み、「まんがの方法」について具体的に捉える。</p> <p>○学習した「方法」を中心に事例ごとの役割や段落同士の関係について整理し、構成をつかむ。</p>	<p>事例のそれぞれの内容を読み取っていった。児童の思考を踏まえ、事例の内容と働きについて考えることにした。</p>

○学習した「方法」を中心に事例ごとの役割や段落同士の関係について整理し、構成をつかむ。

各段落の事例と効果について、ひとつひとつ整理することで、筆者の主張をより掴むことができた。また、全文シートに書き込みをしながら事例を整理することで、自分の経験上印象に残っている事例に気付いたり、まんががどれほどの工夫の上で作られているかなど気付いたりすることができていた。



事例の内容を掲示として整理し、考えの形成に生かせるようにした。青色は「まんがの基本的な方法」、緑色は「言葉がなくても伝わるもの」、赤は「言葉の工夫で表されるもの」として色別に整理した。

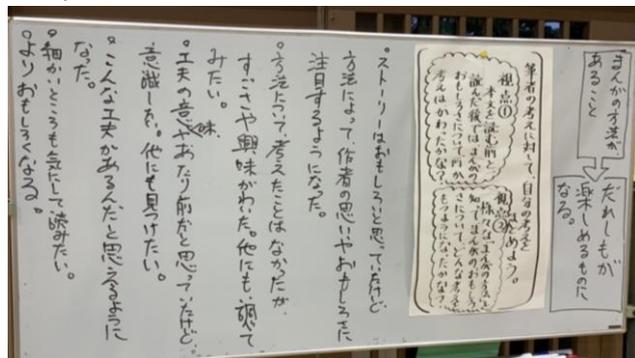
5
本
時

○「キャプテン翼」の例にある「言葉の異なる国でも十分に楽しめる」点について、これまでの事例をもとに考えを整理する。
○まんがの方法によって、まんがはだれにでも面白く読めるという筆者の主張について自分の考えをもつ。
○全体で、自分の考えについて共有する。
○学習の手引きを活用して、振り返りをし、次時の見通しをもつ。

15段落にある「言葉の異なる国でも十分に楽しめる」という部分について考えさせることで、まんがの方法の重要性に気付かせることを目的とした。



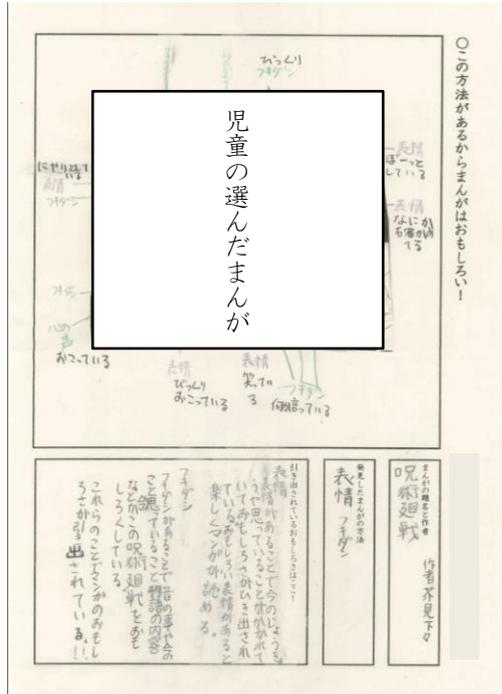
考えの形成の際には、視点を2つもたせることとした。視点を与えることで、児童が考えを形成しやすくなるなった。



三 6 ○「キャプテン翼」の資料から、事例で紹介されている方法とは別の方法を見つける。
○自分の選んだ漫画の中から「まんがの方法」を探して分類・整理する。

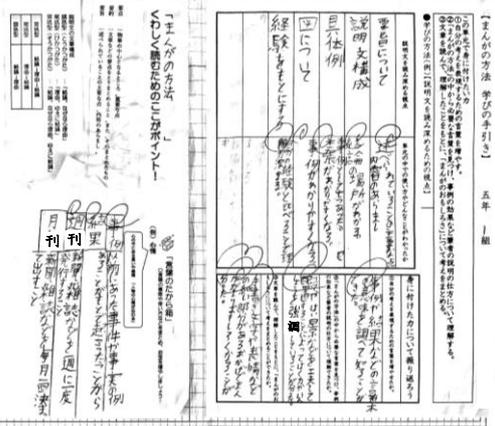
7 ○自分が見つけた「まんがの方法」の中から、効果的だと思うものを選び、紹介にまとめる。
○選んだ資料を提示しながらグループで考えを伝え合い、感想を交流する。

終末の言語活動として、自分の選んだまんがで「まんがのおもしろさ解説シート」を書かせた。事例で紹介されていたまんがの方法が他のまんがでの使われ方を考えたり、内容と方法の結びつきについて考えをもったりすることができている。



○単元の学習をふり返る。

学習の手引きでは、単元で身に付けたい力について振り返りを行った。



【児童の振り返りの例】

- ①自分の考えを表現するための言葉を増やせたか。
事例や結果などの言葉の意味を調べて知ることができた。
- ②「まんがの方法」の中から必要な言葉を見つけ、事例の効果など筆者の説明の仕方について理解できたか。
コマや背景などを工夫して配置することによって、迫力や印象を強調していることが分かった。
- ③文章を読んで、理解したことをもとに、「まんがのおもしろさ」について考えをまとめることができたか。
手書き文字や表情などの細かい部分があるおかげでまんががおもしろくなるのがわかった。